2018 水辺の生き物調査 調査結果報告

平成 30 年 8 月 2 日（火）朝 9 時 00 分から、上野公民館近くの須川支川で、1 年生～6 年生の小学生 7 人が参加し、水辺の生き物調査を実施しました。なお、調査はコンサルタント会社調査員の指導の下に行いました。

当日の調査のようす

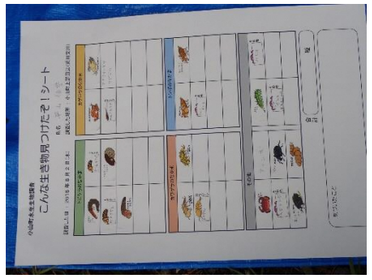
■ライフジャケットをつけ、調査リーダーから注意事項を聞いてから川に入りました。

■タモ網、水槽を受け取って色々な場所で生き物を探しました。

■川の生き物は草の根元や石の下などに隠れています。何がとれたかな。

■陸に上がり、リーダーの説明を聞きながら、捕まえた生き物の名前を調べます。

■わからないことはリーダーにどんどん質問しました。



■捕まえた生き物の名前をシールでたくさん覚えました。

調査の結果

■サワガニやトンボの幼虫、トビケラ、カワゲラ、カゲロウの幼虫など、全部で **40 種類（4 門 5 綱 12 目 29 科）**の川の生き物が確認できました。

■貴重な生物は、静岡県のレッドデータブックで準絶滅危惧（生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）に指定されている**カジカガエル**（成体、オタマジャクシ）が確認できました。

■すんでいる生物の種類から川のきれいさをしらべる日本版平均スコア法（水生生物による水質評価法マニュアル－日本版平均スコア法－を参照）にこの結果を当てはめると、7.4 点となります。ここから、この川の水質は良好（かなりきれい）であるといえます。

No.	門名	綱名	目名	科名	和名	学名	スコア値
1	扁形動物門	有棒状体綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	*Dugesia japonica*	7
2	環形動物門	ミミズ綱	ツリミミズ目	ツリミミズ科	クロイロツリミミズ属	*Aporrectodea* sp.	4
3	節足動物門	軟甲綱	エビ目	サワガニ科	サワガニ	*Geothelphusa dehaani*	8
4		昆虫綱	カゲロウ目	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	*Ephemera japonica*	8
5				マダラカゲロウ科	ヨシノマダラカゲロウ	*Drunella ishiyamana*	8
6				コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ	*Alainites yoshinensis*	6
7					フタバコカゲロウ	*Baetiella japonica*	6
8					シロハラコカゲロウ	*Baetis thermicus*	6
9				ヒラタカゲロウ科	マダラタニガワカゲロウ属	*Electrogena* sp.	9
10					ウエノヒラタカゲロウ	*Epeorus curvatulus*	9
11					ユミモンヒラタカゲロウ	*Epeorus nipponicus*	9
12					ヒメヒラタカゲロウ属	*Rhithrogena* sp.	9
13			トンボ目	ヤンマ科	ミルンヤンマ	*Planaeschna milnei*	-
14				サナエトンボ科	クロサナエ	*Davidius fujiama*	7
15				オニヤンマ科	オニヤンマ	*Anotogaster sieboldii*	3
16			カワゲラ目	オナシカワゲラ科	フサオナシカワゲラ属	*Amphinemura* sp.	6
17				カワゲラ科	コナガカワゲラ属	*Flavoperla* sp.	9
18					クロヒゲカワゲラ	*Kamimuria quadrata*	9
19					フタツメカワゲラ属	*Neoperla* sp.	9
20					オオクラカケカワゲラ	*Paragnetina tinctipennis*	9
21					ヨウクルカワゲラ	*Xanthoneuria joukiii*	9
22			カメムシ目	アメンボ科	アメンボ	*Aquarius paludum paludum*	-
23					ヒメアメンボ	*Gerris latiabdominis*	-
24			ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ	*Protohermes grandis*	9
25			トビケラ目	シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ	*Hydropsyche orientalis*	7
26				ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	*Stenopsyche marmorata*	9
27				ナガレトビケラ科	カワムラナガレトビケラ	*Rhyacophila kawamurae*	9
28					ナガレトビケラ属	*Rhyacophila* sp.	9
29				コエグリトビケラ科	コエグリトビケラ属	*Apatania* sp.	9
30				カクスイトビケラ科	ハナセマルツツトビケラ	*Micrasema hanasense*	10
31				カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ属	*Lepidostoma* sp.	9
32			ハエ目	ヒメガガンボ科	ヒゲナガガガンボ属	*Hexatoma* sp.	-
33				ガガンボ科	ガガンボ属	*Tipula* sp.	8
34				アミカ科	ヒメナミアミカ	*Blepharicera japonica*	10
35				ユスリカ科	ハダカユスリカ属	*Cardiocladius* sp.	6
36				ブユ科	アシマダラブユ属	*Simulium* sp.	7
37				ナガレアブ科	ミヤマナガレアブ	*Atherix basilica*	8
38			コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ	*Platambus fimbriatus*	5
39				ガムシ科	マルガムシ	*Hydrocassis lacustris*	4
40	脊椎動物門	両生綱	無尾目	アオガエル科	カジカガエル	*Buergeria buergeri*	-
						平均スコア値	7.4

もうちょっと詳しく

【学名】・・・・生物につけられた世界共通の名前。ラテン語という言葉が使われている。
【和名】・・・・日本語の名前。
【門（もん）、綱（こう）、目（もく）、科（か）】・・・生物を分けるための分類階級。門から順に小さい区分となる。
【○○属】・・和名が○○属となっているのは、○○の仲間という意味。細かく分けるのが難しい種類。
【日本版平均スコア法】・・出現した全ての生物を科レベルで点数化し、それを出現した科数で平均してスコアを求める。
平均スコアは最高 10 点で、高いほど水質が良いとされる。

こんな生き物がいました！

調査を行った川は、水が冷たく流れが速く、川底には石がごろごろしている場所や、砂の場所もありました。今回の生物調査では、その場所に合った様々な生き物が確認されました。きれいな水に生息するフタスジモンカゲロウ、クロヒゲカワゲラ、ヘビトンボ、ごろごろした石の川底に生息するヒゲナガカワトビケラ、砂や泥がたまった場所に生息するオニヤンマなどです。きれいな川に生息する生物が多く確認されました。

水生昆虫

■フタスジモンカゲロウ（幼虫）
幼虫は流れのゆっくりした川の砂底に潜って生活します。背中のひらひらしたものはえらで、ここで呼吸をします。

■オオクラカケカワゲラ（幼虫）
幼虫は流れが特に速く、水の量の多い川の上流に生息します。約 2 年かけて成虫になります。

■ヒゲナガカワトビケラ（幼虫）
幼虫は水がきれいな川に生息しています。石の裏に粘液の網を張り、引っかかった生き物を食べます。

■クロヒゲカワゲラ（幼虫）
水がきれいな小さな川に生息しています。成虫の触角が黒いことからクロヒゲという名前がついています。

■ヘビトンボ（幼虫）
幼虫はきれいな川に生息します。肉食であごの力が強く人にもかみつきます。マゴタロウムシともよばれます。

■ヨシノマダラカゲロウ（幼虫）
幼虫は川の上流の流れが緩やかな場所に生息しています。前脚は、“力持ち”のポーズをとっているようにも見えます。他の水生昆虫を食べています。

■オニヤンマ（幼虫）
幼虫は全身に細かい毛が生えています。口には前に伸びる大きなあごがついており、砂の中にかくれて通りかかる獲物を捕えて食べます。

■フタツメカワゲラ属（幼虫）
カワゲラの仲間です。水がきれいな小さな川に生息しています。カワゲラ類は通常、3 つの単目を持っていますが、この種類には 2 つしかありません。

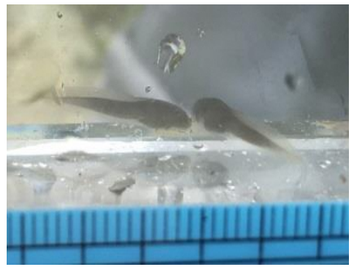
■ヨウクルカワゲラ（幼虫）
水がきれいで流れが急な川に生息しています。もともと、「ジョウクリカワゲラ」と呼ばれていましたが、最近名前が変わりました。

■マルガムシ（成虫）
幼虫は肉食で、成虫になると草食になります。ゲンゴロウと同じくえらがないため、足などの細かい毛に空気をためます。

扁形動物

■ナミウズムシ
きれいな水に生息しています。再生能力が高く、体を 2 分したら 2 匹に、3 分したら 3 匹になって生きていきます。

カエル



■カジカガエル（成体、幼体）
流れの速い川の上流に生息し、岩と似た灰褐色で平べったい体型をしています。オスはきれいな声で鳴きます。幼体（オタマジャクシ）は、川底に生えている藻を食べるため、口が体の下側を向いているのが特徴です。

カニ

■サワガニ
川の上流に生息します。小さいうちはあまり水から出ませんが、大きくなると川のそばの陸地などでもみられます。雑食です。

※生物の写真はすべて小山町で撮影したものです。